

肺癌に対する化学療法患者の外来実施率

●説明

進行期または再発肺癌などの呼吸器腫瘍に対して、安全に抗がん剤や免疫療法の薬物治療を導入し、その後外来通院で治療を継続することによって、がん治療を受けながら普段通りの生活をおくるために必要です。入院で安全に薬物治療を導入した後に、外来化学療法にスムーズに移行して継続できることが重要であり、入院・外来別の薬物療法レジメンの適用実績の比を評価します。

●計算式

$$QI = \frac{\text{外来でのレジメン適用数}}{\text{外来・入院でのレジメン適用数}} \times 100$$

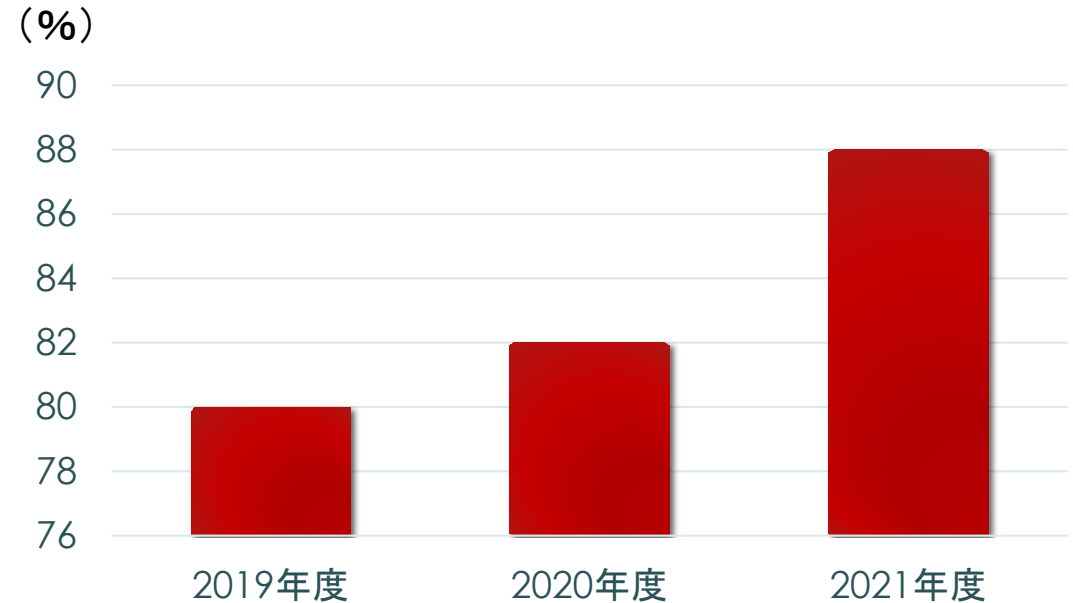
●目標

当院では治療医師と、病棟・通院治療室との間で密接な連携をとっており、円滑に外来外来化学療法に移行しています。最近では治療の進歩により長期間外来化学療法を行うことができる患者さんが増えており、現在の実績を維持する88%を目標とします。

●計画

呼吸器内科でのカンファレンスではより長期間効果が得られる治療を協議し決定します。治療導入後は病棟と通院治療室との連携によりスムーズに外来化学療法に移行できるようにしていきます。副作用の早期発見・早期治療につとめ、カンファレンス等での情報共有や教育の場を作っていきます。

●実績



●評価

化学療法の外来実施率は厚生労働省の統計では65.4% (平成22年度) でした。当院では、上回る数値であり、最新の化学療法によって外来化学療法に積極的に移行して治療が行われていることを示しています。